

令和6年度 越前市白山小学校スクールプラン

めざす学校像

- ・児童の笑顔があふれ、一人一人が輝き、個が尊重される学校
- ・美しい環境に包まれた安心安全かつ未来に向かって歩み続ける学校
- ・保護者や地域から信頼され、子供を主とした学校

学校教育目標

心豊かに、明るく楽しくたくましく生きる子どもの育成

学習指導要領

福井県教育振興計画
越前市教育振興ビジョン ～人間力を高める教育の充実～
教師の願、保護者・地域の願、児童の実態

めざす教師像

- ・情熱と大きな愛情をもって児童に寄り添い、関わりを楽しみ、児童一人一人を大切にしながら可能性を伸ばせる教師
- ・人間力、授業力向上をめざし、常に学び続ける教師
- ・同僚性を高め、連携・協働できる教師
- ・学級や学校の小さな変化に気づくことができる教師

めざす児童像

「かがやけ！白山っ子」

- ④ かんがえ探究し続ける子 白山のために④がんばる子
- ④ やさしく思いやる子 ④ けんこうな生活をする子

研究テーマ

多様な考えを認め合い、自己を表現する力の育成

かんがえ探究し続ける子

- ◎考えや思いを伝え合う授業づくり
- わかる授業の実践による基礎基本の確実な定着
- 家庭と連携した読書活動の推進

やさしく思いやる子

- ◎児童が安心できる、居心地のよい学級づくり
- 道徳性を要した道徳教育の充実と人権意識の向上
- 教育相談の充実及び教職員相互の連携

けんこうな生活をする子

- ◎いのちを大切に、よりよい生活習慣を自ら選択できる子の育成
- 進んで運動をする習慣の定着と健康教育・食育の充実
- 個々の児童の危機管理能力の向上

白山のためにがんばる子

- ◎Shirayama-SDGsを実践し、自己の生き方や白山の未来を主体的に考える子の育成
- 探究学習の推進と地域社会との双方向的な交流(探究学習発表会)
- 保護者や地域との協働をめざした積極的な情報発信

重点目標

具体的な取組

数値目標

- ①少人数のよさを生かしながら、自己決定の場や考える場を設定し、様々な形で自己を表現できる授業づくりを行う。
- ②単元の見通しをもち、わかる楽しさを体験させながら基礎基本の定着をはかる。
- ③学習のあらゆる場面で効果的にタブレットを使用する。
- ④授業の自由参観や学年を超えた教材研究、特別支援教育に関する研修を行い、授業力向上をはかる。
- ⑤学校図書館支援員や図書ボランティアと連携した読書活動や環境整備を行い、児童の読書量を増やす。(家庭と連携した親子読書や週末読書の推進)

- ①明るく元気の挨拶や会話等を通して、コミュニケーション力を育てる。
- ②多様性や個性を尊重し、互いに認め合うことができる温かな学級づくり、新しい発見がある学級づくりを推進する。
- ③道徳教育や人権教育、縦断的・横断的授業を充実させ、他を思いやる気持ちや自己有用感を高め、いじめや不登校の未然防止につなげる。
- ④一人一人を大切に児童理解と教育相談の充実(教育相談問答や教育相談アンケート、いじめアンケートの実施)
- ⑤全職員が連携して児童の小さな変化に気づき、個に応じた支援を行う。

- ①いのちについて考える場を設定し、自他のいのちを大切にする心を育てる。
- ②家庭との連携をはかりながら、健康に過ごせる望ましい生活習慣を育てる。
- ③様々な運動にふれる機会を設定し、児童が体を動かすことの楽しさや気持ちよさを味わうことができるようにする。
- ④交通安全教室や避難訓練、その他の活動を通して、児童の安全意識を高め、自分の身を守る方法を伝え、児童自身の危機管理能力を育てる。

- ①Shirayama-SDGsに関して、地域と連携し、「陸(白山)の豊かさを守る活動」について、自分の課題をもち、探究することができるしなを学習活動に組み込む。同時に、ウェルビーイングについて考える学習も取り入れ、自分自身と地域の今後のあり方について前向きに考える心を育てる。
- ②Shirayama-SDGsに関する学習の発表会を地域に公開し、双方向の意見交流を行い、自分のよりよい生き方や白山の未来について考える機会を設ける。
- ③学校だよりやホームページ等を充実させ、学校の教育活動の成果や児童の様子を積極的に発信する。(各担当が毎月2回以上のホームページの更新)

- ・自分の思いや考えを伝えることができる児童 85%以上
- ・考える場や児童が自己を表現できる場を設定した授業を行った教員 100%
- ・読書が好きな児童 85%以上

- ・相手の気持ちを考えて行動したり、誰に対しても優しく接したりすることができる児童 90%以上
- ・学校に通うのが楽しい児童 90%以上
- ・児童が自分のことを認めたり、お互いに認め合ったりする取組を行った教員 100%

- ・いのちの大切さについて、日々の生活や授業で取り上げている教員 100%
- ・「早寝・早起・朝ごはん」や「メディアルール」等、健康な生活に関する取組ができたと回答する保護者 80%以上
- ・進んで運動したり体を動かした遊びをしたりしている児童 85%以上

- ・自分が住む地域が好きで、地域のよりよい未来について考えることができる児童 90%以上
- ・地域人材や地域の人材を活用し、地域学習を充実させた教員 100%
- ・学校の情報発信に対する保護者の満足度 90%以上

業務改善のための取組

- 行事や時程表、業務内容の見直しのさらなる推進と業務の明確化・適正化
- 校務支援システムなどを活用した事務打ち合わせの効率化(ペーパーレスの推進)
- 会議等の精選と終了時刻設定の徹底
- 高学年における教員担任制の導入
- 勤務時間や校務効率に関する教職員の意識改革(ボトムアップで業務改善を進める体制の構築、放課後業務予定表・ToDoリストの作成など)
- 時間外在校時間月45時間以上に向けた月半までの面談及び働き方支援
- 個人の前年度同月の在校時間1割以上の削減